

第6学年2組 国語科学習指導案

平成30年10月26日(金) 指導者 米多 康輔

1 単元名 感動の中心をとらえよう「海のいのち」(東京書籍) p104～p114

2 単元について

(1) 本単元は、学習指導要領におけるC読む(1)エ「登場人物の相互関係や心情、場面について描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」を重点的に指導するものとして設定されている。児童は、これまでの学習において、「中心人物の心情の変化」や「物語のクライマックス(山場)を捉える」など、さまざまな「言葉の力」を身に付けてきている。そこで、本単元では積み上げてきた読む力を総合的に生かしながら、中心人物の心情の変化とその理由を読み取り、自分が物語から受ける感動の中心を捉えて、言葉で表現する力を付けることをねらいとする。

本教材は、中心人物である太一が、父や与吉じいさなどの周りの人物との関わりを通して成長していく物語である。太一をはじめ、「海」で生きるそれぞれの人物像を捉えさせ、人物と人物との関係を手がかりに、クライマックスでの太一の心情の変化とその理由について考えさせたい。太一の心情の変化を読み取ることで、読み手は生きることや自然との関わり方、命について深く考えることができる。

また、本教材は海やクエに関する情景描写が大変美しい。情景描写に使われている比喩や擬音語、色彩語、擬人化された表現などに着目することで、太一が体験している海の世界をより深く味わい、言葉がもつよさを認識し、進んで読書する態度を育成することが期待できる。

(2) 児童の実態は次の通りである。

略(ブログ担当者)

(3) 本時の指導に当たっては、次の事項に留意する。

【研究主題】	確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成 ～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～
---------------	---

本単元では、課題に対して、他者と関わりながら自らの考えや表現の仕方を変容・補強していこうとする姿(対話的な学び)を引き出すことをねらう。本時では、太一と父を比較することを通して、海のいのちとは何か、物語が最も自分に語りかけてきたことは何かを読み深めていく。

① 児童の既有的知識・技能を引き出すめあてや課題の設定

児童はこれまでの学びで、父や太一の考え方や生き方を捉えてきた。そこで、父を超えようとして瀬の主にもりをつき出すが、討たなかった太一は父を超えたのかと問うことで、両者を比較させる。「超えた」「超えていない」と意見を選択させ、全員が同じスタートラインに立ち、学習が始められるようにする。児童はこれまでの知識や技能を駆使し、場面を横断し、他者と対話を重ねることで、課題に迫っていくと思われる。

② 板書を軸として、児童同士の思考をつなぎ、納得を促す教師の手立て

本時の見通しを一目でわかるようにするため、板書では中央に瀬の主を、右側に父、左側に太一を配置する。ウェビングの手法を用い、児童が発した言葉や叙述を板書することで、児童同士の思考を整理し、関連付け、作品からのメッセージ(物語が最も自分に語りかけてきたこと)を受け取れるようにする。また、全文プリントを掲示し、児童が着目した叙述をマーカーで色付けし、全体で共有できるようにする。

3 単元の目標

物語が自分に最も強く語りかけてきたことを解説文としてまとめることができる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	知識・理解・技能
物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。	物語の山場で起きる人物の心情の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読んでいる。	物語が自分に最も強く語りかけてきたことを文章にまとめたり、短い言葉で表したりしている。	だいたいな言葉や表現の工夫などに気づき、物語が強く語りかけてきたことを考える手がかりにしている。

5 指導計画(9時間取り扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準及び評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 初読の感想を書く。 学習の見通しをもつ。 	○ みんなで話し合いたい話題や初読後の作品からのメッセージを考えさせる。また、学習のゴールを示し、学習の見通しをもたせる。	関 みんなで話し合ってみたい話題や初読後の作品からのメッセージを考えている。(ノート・観察)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 全文を小さな場面に分け、あらすじをまとめる。 	○ 各場面を一文でまとめ、物語全体の様子を捉えられるようにする。	読 各場面を一文でまとめることができる。(ノート・発言)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 物語の設定を捉える。 話題を決める。 	○ 時・場・人物の設定を捉え、読みの土台を整える。また、話題を決め、学習内容を焦点化する。	読 時・場・人物の設定を読み取ることができる。(ノート・発言)
	4	<ul style="list-style-type: none"> 与吉じいさとの関わりを読む。 	○ 児童の発した言葉や叙述をウェブングの手法で板書し、太一と対人物との関わりを捉えさせる。	読 叙述から太一の心情や対人物との関係を読み取ることができる。(ノート・発言)
	5	<ul style="list-style-type: none"> 父、母との関わりを読む。 		
2	6	<ul style="list-style-type: none"> 太一の心情の変化を読み取る。 	○ 瀬の主を討たなかった太一の心情を考えることで、「瀬の主は海のいのち」「いのちの象徴」など作品からのメッセージに迫るような読みを共有する。	読 太一の心情の変化を叙述から読み取ることができる。(ノート・発言)
	7 本時	<ul style="list-style-type: none"> 物語の変容をまとめる。 	○ 意見を持ち、他者と対話を重ね、読みを深めるため、問題解決型のめあての提示や対話の場の工夫をする。	読 叙述から太一が選んだ生き方を読み取ることができる。(ノート・発言)
3	8	<ul style="list-style-type: none"> 作品からのメッセージをまとめ、解説文を書く。 	○ 解説文を書くことで、これまでの自分の読みを再構築させる。	書 自分が受け取った作品からのメッセージとその理由を書くことができる。(解説文) 知 だいたいな言葉を落とさず書いている。(解説文)
4	9	<ul style="list-style-type: none"> 作品からのメッセージを語り合い、共有する。 	○ 解説文をもとに、他者と内容を交流することで、自分の読みや考えをより深いものとする。	関 他者の作品からのメッセージを受け、自分の読みを振り返ろうとしている。(ノート・観察)

6 本時の学習

(1) 目標

太一と父の行動を比較することを通して、叙述から太一が選んだ生き方を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	時間	学 習 活 動 T発問・指示 C児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価	備考
導入	5	1 前時を振り返り、本時の課題をたしかめる。【一斉】 T 太一は本当の一人前の漁師にはなれませんでした。しかし、村一番の漁師であり続けました。結局、太一は父を超えたのでしょうか。 C 超えたと思います。いや、超えられなかったと思います。	・太一と父の行動を比較し、結局、太一は父を超えたのかと問うことで、児童の思考にズレを生み出し、学習意欲を高める。	全文プリント 学習計画表 学習の足跡
展開	8	2 自分の考えをメモする。【個人】 T 書かれている言葉、事実から理由を考え、メモしましょう。	・ペアを変えながら複数回対話をさせることで、児童の考えをまとめ、話したいことへの自信をつけさせる。	短冊 ネームカード
	27	3 対話によって考えを深める。 【ペア、一斉】 T ペア対話をして考えを深めましょう。 T 瀬の主を討たなかった太一は父を超えることができたのでしょうか。 C 私は超えていないと思います。太一は瀬の主を直前まで殺そうとしました。つまり、命を奪おうとしたと思います。父は命をいただこうともりをついたと思うので、太一はまだ幼いから超えていません。 C 私は超えたと思います。父は瀬の主をもりでつきましたが、太一はつきさしていません。太一は殺してしまうと、海のいのちのサイクルが途絶えろと考えたと思います。だから、超えています。	・ボードに「超えた」「超えていない」の横軸を書き、ネームカードを貼らせることで、自分や他者の立ち位置を明確にさせる。 ・黒板の中央に瀬の主を、右に父、左に太一を配置する。児童の発した言葉や叙述を短い言葉で記し、言葉と言葉をつなぎ、考えの可視化、構造化を図る。	◇ 超えたかどうかの意見を書き、理由を叙述から考えている。読（ノート・発言）
まとめ	5	4 学習をまとめる。【一斉、個人】 T 板書した言葉をつかって、まとめましょう。 T ノートに振り返りを書きましょう。	・対話を通して、考えたことを再構築し、自分の読みをまとめ直させる。	

めあて 太一は父を超えることができたのか。

まとめ 太一は父を超えた。というより、太一は瀬の主を討たないことによって、海のいのちを守る村一番の漁師としての生き方を選んだ。

